



▲皆さんが着ているセーターやマフラーは手づくりの作品。2年ごとの作品展で地元の皆さんに紹介します。

光る地域

色づいた周辺の山々がそうであるように、柔らかな色のセーターを着ている皆さん。手編みされた温かみに加え、地元に見える草木で染められた風合いは安来色です。「マザーアーススピニング」は羊毛などを紡ぎ、草木で染めて作品を作るサークル。毎月2回、赤屋老人センターを拠点に活動しています。「12年前に出会った冊子の記事が全ての始まりです」と

天然素材と仲間を紡ぎつづける

マザーアーススピニング（伯太町赤屋）

作品に使う毛糸は、ごみ取り・洗浄からはじまり、カーディング※、染め、紡ぎ、編みなどたくさん工程を経て仕上がります。セーターはたくさん作る人で年間5着が精

話すのは代表の板倉喜美子さん。「羊毛を紡ぐ」ことに興味があった仲間と共に記事に出ていた人に会いに行きました。その後、月に1、2回のペースで平田町（出雲市）の工房へ、ひととおりできるようになるまで約4年通い続けました。

その後は、試行錯誤を重ねて原毛の草木染めを独自に習得。使用する草木は身の回りにあるサクラやチューリップ、クリ、タマネギ、セイタカワダチソウなど、化学染料を使わないナチュラルな安来色を使い分けます。

設立時から参加する神庭延子さんは「サークル名は文字どおり大地由来のもののみを使って糸を紡いでいくことから名付けました」と話すように天然素材を使った「循環」にこだわった活動をしています。



▲糸繰り機で紡いでいきます。作品によって糸の太さが異なり、細く紡ぐのが難しいとのこと。

山本訓枝さんは「この会では一人一人が全ての工程をこなします。色や形など自分の思いが形になるところが楽しいですね」とサークルの魅力を語ります。

取材日も9時から活動が始まりましたが、10時過ぎまではお茶を飲みながらの世間話。その後も指先はそれぞれ作業をこなしますが、笑い声が絶えません。

もう一つ、長年活動が続いている理由を、前田節子さんは「完成した時の喜びもありますが、皆さんとおしゃべりしながらの作業が楽しい」と打ち明けます。

取材日も9時から活動が始まりましたが、10時過ぎまではお茶を飲みながらの世間話。その後も指先はそれぞれ作業をこなしますが、笑い声が絶えません。

※繊維方向が揃った綿状の塊にする作業

編集後記

▼取材で久々に月山へ。ウォーキングの様子を撮るため、参加者より前を歩きます。石垣の前などの良さそうなポジションでカメラを構え、撮ったら走って先回り。これを繰り返していたら嫌なことを思い出しました。この難攻不落の山城には「七曲り」があることを。泣く泣くダッシュで駆け上がりました(旬)

▼新春座談会は市内の学校に通学する高校生にお願いしました。2002年生まれの二人は、物怖じすることなく堂々と自分たちの考えや思いを話してくれました。自分を振り返り当時、住むまちのことなんて考えたことなかったなと思いつつ、素敵な笑顔で新春号に彩りを添えてもらいました(6)

安来市の人口と世帯数 R1.11.30現在

人口合計 / 38,413人
(男:18,452人 女:19,961人)
世帯数 / 14,392世帯



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

●資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。